

第1回

偶数手ばか詰作品展



開催：平成19年10月 1日
解答締切：平成19年10月31日
解答発表：平成19年11月 1日

たくぼんの解図日記

<http://takubon-tumeshougi.269g.net/>

はじめに

さてお待ちかねの第1回偶数手ばか詰作品展の開催です。

1題だけ骨のある作品がありますが、それ以外は考えやすい作品が揃いました。たくさんの解答をお待ちしております。1～8番が通常の偶数手ばか詰、9～11番が偶数手打歩ばか詰、12番が推理将棋風になっております。お間違いのないように・・・。

【解答要項】

出題：平成19年10月 1日（月）

解答締切：平成19年10月31日（水）

解答発表：平成19年11月 1日（木）

解答は、メールにてどなたでも参加できます。

解答送り先→takuji@dokidoki.ne.jp

*本作品展は、正式発表としTOPIXの対象となります。

また解答のコメントは結果発表にて掲載いたしますので

ご了承ください。敬称等も略させていただいております。

【ルール説明】

偶数手ばか詰

通常のばか詰（先後協力して最短手数で、受方の玉を詰める）と同じですが初手後手（玉方）より指し始めます。

偶数手打歩ばか詰

偶数手ばか詰で最後必ず打歩で詰上ること。打歩以外で詰上る手は禁手。

第9番. 伊達 悠 作

偶数手打歩ばか詰 6手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									▲飛
									一
									二
									三
							歩	王	四
									五
									六
									七
								玉	八
									九

第10番. 小林看空 作

偶数手打歩ばか詰 6手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									▲角桂歩
									一
									二
									三
									四
							王		五
							王		六
									七
									八
							角	玉	九
									九

第11番. 小林看空 作

偶数手打歩ばか詰 10手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									▲桂三
									一
									二
									三
									四
							王		五
									六
									七
							角		八
									九

第12番 神無太郎 作

【推理将棋風】

某月某日、T鑑定研究会での“すすむ氏”と“とおる氏”の会話。

晋「この前の日曜、M山での鑑定会に行って来たんでしょ。N浜の鑑定結果はどうだったの」

通「駅前の駐車料金の差が決め手でN津より田舎という判定」

晋「予想通りだね」

通「それはいいんだけど、最初うっかり隣の詰将棋の会合の部屋に入っちゃって参ったよ」

晋「詰将棋でも会合があるんだ」

通「TぼんとかKぼんとかいう人たちが世話人のようで、『詰めよんかい?』って声かけられた」

晋「案外、普通の人たちじゃないか」

通「それが、どうも普通の詰将棋ばかりやってるんじゃないみたいなんだな、これが」

晋「普通じゃないって?」

通「打歩ばか詰とかっていうルールらしいんだけど」

晋「何だいそりゃ」

通「普通、打歩詰は禁手だろ。ところが打歩で詰めよ、というルール。代わりに普通の詰手段が禁手なんだと」

晋「へえーっ、変なこと考える連中だね。で、何で“ばか”なの?」

通「それはまた別のルールで、普通後手は抵抗するけど、ばか詰では後手も協力して詰むように逃げるんだと」

晋「ますます変なこと考える連中だね。そんなので詰将棋になるんだろうか」

通「おまけに手数が2手とか言っていた」

晋「2手の詰将棋??」

通「後手から指し始めるそうだ」

晋「まったくついていけないねえ。で、図面は覚えてるの?」

通「並べている途中をちらっと見ただけなんだけど、後手は王様が 41 にあって、その両隣に飛車。先手は 44 に角があった。持駒は歩」

晋「それじゃいくらなんでも詰まないね」

通「すぐ部屋から出て行ったんで、そのときはそこまでしか分からなかったんだけど」

晋「だけど？」

通「鑑定会のあと居酒屋に行ったんだけど、連中も来たんだよね」

晋「奇遇だねえ」

通「で、連中が最初に注文したのが、ウーロン茶 6 杯！」

晋「居酒屋でウーロン茶だけ？ とことん普通じゃないことが好きなんだなあ」

通「で、連中、件の詰将棋の話しを始めた」

晋「詰将棋の会合のあとで、また詰将棋の話しか。そうとう物好きだな」

通「漏れ聞こえたところでは、どうも盤上には先手の駒が 2 枚、後手の駒が 4 枚があるようだ」

晋「とすると、先手 1 枚と後手 1 枚の配置がはっきりしないということか」

通「あと分かっているのは、パソコンソフトでチェック済みで完全だということ」

晋「たった 2 手の詰将棋をソフトでチェックとは、根性のない連中だね」

通「で、そのソフトをインターネットで検索してみたんだ」

晋「普通のソフトじゃないんでしょ、見つかったの？」

通「あったよ。フェアリー・メイトって言うんだ」

晋「フェアリー・メイド？ 萌え系？」

通「いや、かなりのハードコアだ。ほか以外にも、悪魔だの魔女だの最悪だの自殺だの、危なそうなキーワード山盛りのサイトにあった」

晋「近寄りたくないね」

通「“虎の穴” なんていうソフトの奥義伝授のコーナーまであったよ」

晋「用意周到というか、ますます怪しいというか」

通「で、そこに絨毯爆撃っていう物騒な名前の検索手法が紹介してあったんだけど、これが一番使えた。他にも邪魔者の消し方とか畏の仕掛け

方とか停電対策とかいろいろあってね」

普「どういうソフトなんだ？ で、凶面は判明したってこと？」

通「うん。ちょっと手抜きしたけどね、色んな奥義を使って 2 時間くらいかかったな。これがそう」

普「ほう、世話人にちなんだ詰将棋って訳か」

通「偶然だとは思うけどね」

“とおる氏” が探し当てた詰将棋はどのようなものだったのでしょうか。

【注記（簡略化したものです）】

先手、後手の駒をそれぞれ 1 枚ずつ盤に追加して完全作にせよ。

打歩ばか詰 2 手



*追加する配置と詰手順をお答え下さい